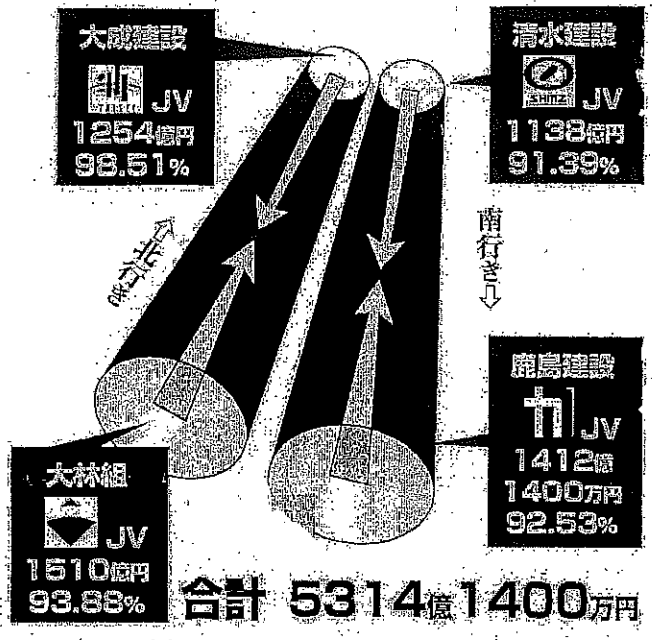
外環道本線トンネル工事落札者と落札金額、落札率



外環道本線トンネル工事入札結果	開札順1⇒北行き 東名北工事	開札順2⇒南行き 東名北工事	開札順3⇒南行き 大泉南工事	開札順4⇒北行き 大泉南工事	落札額と落札率
大林組・西松建設・戸田建設・佐藤工業・錢高組JV	落札	無効	無効	無効	1510億円 93.88%
鹿島建設・前田建設工業・三井住友建設・鉄建建設・西武建設JV	3位	落札	無効	無効	1412、14億円 92.53%
清水建設・熊谷組・東急建設・竹中土木・鴻池組JV	2位	2位	落札	無効	1138億円 91.39%
大成建設・安藤・間・五洋建設・飛島建設・大豊建設JV	無効※	3位	2位	落札	1254億円 98.51%

※＝予定価格を上回る入札で無効 / 落札率＝予定価格に対する落札価格の割合

“外れない宝くじ”ゼネコン幹部語る

「ハズレのない宝くじ」。ゼネコン関係者がそう呼ぶ新しい入札方式で、大手ゼネコンが巨額公共工事を高値受注し、大もうけしています。その舞台は、「1キロつくるのに1億円かかる」という東京外郭環状道路（外環道）のトンネル工事。編集部の調べで分かったそのカラクリは…。　取材班

消費税大増税が強行された直後の3日。国の委託を受けた東日本高速道路と中日本高速道路の両社が、外環道のトンネル工事4本を契約しました。

同工事は、関越道大泉ジャンクション（東京都練馬区）から東名高速東名ジャンクション（同世田谷区）の16・2㌔に、外径16㍍の本線トンネルを2本掘るもの。落札金額の総額が約5314億円超で、原資は税金です。

認可保育園を3万人分つくる費用が780億円ですから、これと比べても巨額です。

奇怪なのは、まるで談合をしたかのように大手ゼネコン4社（鹿島建設、大成建設、大林組、清水建設）が幹事社の共同企業体（JV）がそれぞれ四つの工事で仲良く1工事ずつ受注。しかも談合に特有の91・39～98・51％という高い落札率（予定価格に対する落札額の割合）になっていることです。（図参照）

税金食い物

「4工事で4JVがハズレなく受注できるように大手ゼネコンと役所が相談して決めた」（ゼネコン関係者）という新方式のカラクリは後述するとして、まず大手ゼネコンの大もうけぶりをみると―。

「はっきりいってかなりもうかる」と明かすのは工事を受注したゼネコン幹部。「落札率が70％くらいでも十分に採算が取れる。90％以上だと笑いが止まらない」と語ります。

なぜか―。

工事費の7割近くを占めるのは、トンネルを掘るシールドマシン（掘削機）とセグメント（トンネル外壁となるブロック）の費用。

「シールドマシンは、発注者が積算した金額よりかなり安くメーカーから購入できる。パイ（総額）が大きいので、もうかる額も半端ではない」（ゼネコン幹部）

また「完成工事総利益率は15％程度が目標（前回）といい、目標通りなら受注した4JVには800億円近いもうけが―。

「市民による外環道路問題連絡会・三輪」の事務局の西島正樹さん（56）は怒ります。

「安倍政権は消費税大増税で庶民を苦しめる一方、ムダな工事に巨額の税金をつぎ込んで大手ゼネコンにもうけさせる」

「ハズレのない宝くじ」方式のカラクリとは―。

同工事は異例の巨額工事だけに、当初から受注するのは建築を得意とする竹中工務店を除く大手ゼネコン4社（鹿島建設、大成建設、大林組、清水建設）が幹事社となる共同企業体（JV）とみられていました。問題は、公正取引委員会に摘発される入札談合なしに大手ゼネコンがそれぞれ高値受注できる仕組みづくりです。

“勝ち抜け方式”

そのカラクリの一つが、ゼネコン業界で“勝ち抜け方式”と呼ばれている入札方式。発注者の東日本高速、中日本高速の両社は「このようなやり方の入札を―したのは初めて」と認めます。

この方式は、4工事の入札に重複して参加できますが、ひとつの工事で落札者となった場合、当該工事以外の入札では無効になるというのが特徴です。

実際の経過は別表のように、最初の開札で大林JVが勝ち、続く工事で大林JVを除く3JVのなかから鹿島JVが勝ち、3番目の工事では残る2JVのうち清水JVが勝ち、最後は大成JVが1社だけの入札で落札しました。

1社入札となった大成JVの落札率（予定価格に対する落札価格の割合）は何と98・51％でした。

工事能力が高い大手ゼネコン4社を幹事社に他社をJVで参加させ、4JVに合わせて4工事にすることで“ハズレなし”入札にする―。それがポイントです。

もう一つは、高値受注のカラクリがあります。今回の入札では技術評価と価格評価を行う総合評価方式を採用しています。

この方式では、東日本高速、中日本高速の両社がこれを下回ると低入札価格調査の対象となる調査基準価格を設定します。

問題はこの調査基準価格のレベル。両社とも調査基準価格は、予定価格の約90％で設定していました。

このため落札した4JVとも落札率は90％以上となっているのです。

工事を受注したゼネコン幹部が語ります。

「まさにハズレない宝くじでしょう。ゼネコン業界として、日ごろから自民党に献金し、国土交通省出身議員の選挙支援をしているから、役所も考えてくれたんだと思っています。違法となる談合なしに、仲良く高値受注できるのだからいうことなしです」